

太子町子ども・子育て会議（令和元年度第2回）会議録

1. 開催日時 令和2年2月3日（月） 10時00分～11時45分
2. 開催場所 太子町役場 議会棟 C101 会議室（全員協議会室）
3. 審議事項 第2期太子町子ども・子育て支援の策定について
4. 出席委員 山口昭彦委員 武田英樹委員 田中薫委員
井原春佳委員 岡村珠美委員
（町長部局）木村和義生活福祉部長
（教育委員会部局）栄藤雅雄教育次長
5. 欠席委員 小島早苗委員 松浦知子委員 金治ゆかり委員
改發裕子委員
6. 事務局 藤野和徳社会福祉課長 和田淳子副課長
7. 傍聴者 なし
8. 審議経過及び結果 以下のとおり

【審議経過】

1. 開会
2. 会長あいさつ

会議録署名委員に山口委員と岡村委員を指名

3. 議題
第2期太子町子ども・子育て支援の策定について
〈事務局より説明〉

武田会長 ただいまの説明に対して質問をお願いします。

山口委員 第2章の現状と課題の中で、年齢別人口の推移について、どこの地域も少子高齢化が進んでおり、太子町では緩やかな進行だということですが、もう少し周辺地域と比べた太子町の特徴を教えてください。

事務局 27年の国勢調査時の状況からいいますと、若い世代が多い町というのは言われております。転入してこられる若い世代が、子供を連れて入ってくるような状況が見てとれますので、出生数は減っているけれど、児童数はそんなに大きく減っていないというのが現状で、若い世代に対する魅力がある町であろうと思われます。子育て世代のニー

ズをどう汲み上げていくかというのが、今の太子町の課題ではないかと考えております。

山口委員 私が見ても、ほかの地域に比べると、若い世代がまだ多い町ではないかなと思っています。資料からもわかりますが、私がいる斑鳩小学校においては、子どもは毎年増えておりますし、ほかの地域であれば、児童数が減少しているのがほとんどです。佐用や宍粟の方へ行きますと、学校がどんどん統廃合されている実態がございまして、そういう意味でも、太子の場合は、むしろ増えている学校もあり、太子町にはとてもいいことだと思われます。ただ、若い世代がふえ、女性の就業率がどんどん上がっている中で、今、学童保育の充実が欠かせない課題です。去年も、学童に入り切れないと、いきなり遠慮くださいということがありました。保護者の方も、学童保育は、充実させてほしいと強く願っておられます。いろんな方が越してこられ若い世代が、増えている状況もあるので、学童保育は、今後も希望したら、入れるような体制をお願いしたい。それからもう1点、一人親家庭が増加しているというデータが出ておりました。また、経済的な面の支援が必要な家庭も増えているということです。子育てをされている方の支援施策を充実させていくことが、さらに必要かと思えます。

事務局 今伺った意見を、計画に盛り込めるような形をとっていききたいとは考えております。学童につきましては、施設面の整備が必要な部分と、支援員の確保というものの、大きな課題になっておりまして、施設を用意したが、支援員が集まらないような状況もありますので、こういった形で充実させていくのか検討していきたい。それと、アンケート結果の中でいいますと、学童保育に対するニーズと、社会教育課が担う放課後子ども教室のニーズも、ある一定割合あるようなので、資料の13ページの地域学校協同活動や、学童との連携も含め、子どもの放課後の在り方について、計画に何か盛り込めたらと考えているところです。

岡村委員 私は商工会女性部から出ていますが、女性を雇用した立場です。また私自身も地域で習字教室を持っています。私だけでなく、地域には高齢の方で、時間に余裕のある方がすごく多いです。皆さん、教育とか、生活経験者で、支援する立場の側にたてる方も、たくさんいらっしゃいますが、支援する立場にあるものとしては、その資格がなかったらだめなのかと考える人もあります。もし資格で、該当しないので、力がないのですが、生活面で支援をすることは、幾らでもできると考えます。また、地域に空き家ができています。若い方は新しいお家に越してこられますが、空き家を利用し、子どもたちの時間を有効に使ってやるようなことができるのではないかと。以前から子ども子育て会議に携わり、いつもそれを感じています。少しでも、お母さんが楽になり、子ども達も楽しく過ごせるようになればという思いです。

武田会長 例えば、保育士が全国的に足りてない状況の中で、就職となると、隣の大きな市町に新卒の卒業生が吸収されたり、神戸や大阪の方に出てしまう。また帰省してUターン就職をしてくれるのかなど、なかなか難しい現状がデータの的にあります。そういった中、どうやってUターンを進めるか、経験者の人たちを、どう掘り起こすかなどの策定は、四苦八苦しながら取り組まれていると思います。これまで踏襲してきた広報という形で募集はありますが、個人的なイメージとして、太子町がどんなふう掘り起こしキャンペーンを組んでいるのか、支援員の募集をしているのかという情報はありません。また募集があったとしたら、私たちにもできるのかといった入り口部分の情報、町民さんにどれぐらい伝わっているのかと思います。人口減少のある地域になると、如実にそういったことが意識されると思いますが、太子町はコンパクトシティ化していて、地域の面積もぎゅっとしています。実は空き家があるけども、全体像

としては、まだまだ元気な町というイメージで、そういった意識も、低いのでしょうか。町民の皆さんにとったアンケートですが、こういったところは生かされているという実感はありますか。

田中委員 アンケート等とっていただくのもいいのですが、現場の意見を吸い上げられているのか。アンケートの内容から余り現実味を帯びてないような感じがします。募集の際に、どのような資格があればどう生かせるのか。また、ボランティアなのか有償なのかなど、希望はあったとしても、一体どういうふうにすればいいのか、どう役立ちができるのかわからないところが、たくさんあると思います。具体的に示して募集いただければ、手を挙げられる方がいらっしゃるのではないかと思います。役場の「はらっぱ」で絵本とリトミックをされている森本先生は、もと教職の経験者ですが、ボランティアで8年間されている。そんな方も実際にいらっしゃるので、役場の和室や会議室の空いている時間に、部屋が使えるのであれば、何人かそういったことを希望される方がいらっしゃるのではないかと、岡村委員のお話を聞いて感じたところです。

武田会長 田中委員ありがとうございます。事務局、要検討ですね。利用施設等があるのであれば、あとは人材とどう組み合わせるかです。空いています、どうぞ。だけでは有効利用ができていない。恐らくニーズも埋もれてしまっているのだろうということ。結びつけるのが、やはり施策ということになると思います。

井原委員 アンケートをとって、参考にさせていただけるのだろうなと感じるのですが、今回は資料も人手不足で、誤字脱字があったり、急がれ、後でプランを修正していただいている部分が見受けられるので、役場自体も、外も、人が足りていないのだろうと思いますが、次世代のために動いていただきたいなと思います。アンケートの中で、19ページ、支援するためにどのようなものに力を入れてほしいと思いますか、というところで、もっと子どもが遊べる場所が欲しいということ、そしてその2番、子ども連れで出かけやすく楽しめる場所を、増やしてほしいとあります。現時点で、のびすくや学童保育という場所があり、そこは年の最初に申し込みをして、受かった人が入るという保育所と同じパターンがあります。それを知らない人、例えば私の友達がこの4月に姫路市から引っ越してくるのですが、私がその情報を教えなければ、役場へ自分で情報を聞くということもしなかったし、フェイスブックやインスタグラムもしていないので、わからなかった。知らない人でも、途中からでも、申し込まずに入れるような遊ぶところがあればいいんだろうと思います。1からつくることは、膨大なお金がかかり難しいです。今、太子町は、老人ホームが増えてきています。その老人ホームの入口を入ったところに、子どもプレールームがあれば、誰しもの入りやすい。お母さんと同伴で、2歳3歳の子ども10人ぐらいが一緒に入れるところがあれば、おじいちゃん、おばあちゃんにも活気があふれたりすると考えます。病気の面は、また検討していただきたいのですが、プレーマットを置いてもらうだけで、おもちゃとかは、募集すれば家に余っているものを、使ってくださいという人もいらっしゃると思う。そういうのもいいかなと思います。あとは、先ほど言われたように、「はらっぱ」に大型絵本がありますが、役場に来て、掲示板で見て、はらっぱ絵本の時間を確認する方もいらっしゃると思うのですが、自分から確認していこうというのは、子育て中ですと難しいことがあります。ですから、子どもが遊んでいる場所、龍田の公園とか、太子町グランドのひまわりの公園とか、子どもが遊んでいる時間帯を調べて、大型絵本の方から出向くというのも、一つの案じゃないのかと。そこで、最後にこんなことやっている、あんなことやっているとお知らせするのも方法で、そこに役場の人間がいることで、子どもがこうやって遊んで、こういうことを必要としているという現場の意見が見えるのが、1番プラスになると思います。

事務局 貴重な御意見ありがとうございます。実際、担当の児童福祉係では、日々の事務に追われ、机に座って1日が終わってしまうような状況があります。学童であったり、のびすく、児童館であったり、出先施設をたくさん持ちますが、その出先施設へ赴いて連携が取れているかという点、すごく弱い部分で、今後子ども子育ての施策を展開する中では、現場もしっかりと見ていく必要があるだろうと反省しております。今後の計画の中で盛り込むことについて、実際に現場の職員も含めて、いろんな議論ができる形のものを持っていきたいと考えてところです。

武田会長 太子町の特養といえば、まほろばと太子の郷の二つ。あとは、サ高住とかでしょうか。少なくとも社会福祉法人であれば、昨今努力義務ですけども、法的な中で、社会貢献地域貢献をしていこうと言われていています。また、保育所も、子どもと保護者を、地域のかかわりへということを求められている状況の中で、当然いろんなところとの連携をしながらやっていかざるを得ない。保育所の協会も、常々、役場と意見交換会をしたいと言われている状況もありますので、そういったこともしながら具体的なものをつくっていくないと、子どもたちの見える形の支援にはならないと思いますので、一つでも二つでも具体的な形のものを入れ込みたいですね。

田中委員 前回の会議のときにもお話しさせていただいたと思うのですが、いろんなところと連携をとるコーディネーターみたいな方は募集されていますか。

事務局 社会福祉でいえば、子育て支援のコーディネーターという位置づけられる方がいるのですが、今募集をかけて何かに取り組んでいくところには至っていないのが現状で、コーディネーターがどこまで担うかというのも難しいと思う。制度上、例えば子供を預けたいといった時には、簡単なことは窓口で伝えている状況ではあるが、それに特化した。ポジションの人間を置くというところには至っていません。

田中委員 前回の会議の時も話しましたが、課員によって縦割りになってしまい、その壁が超えられない、なかなか調整も効かない、話し合いも難しいということで、そういう垣根、しがらみの無い人で、うまく纏められる方がいらっしゃったら、いろんな現場の意見も素直に話せ、意見が吸い上げられる。空き家とか、役場で空いている場所も有効利用につながっていくのではないかなと思うのですが、どうしても、ここはここまで、その後はここまで、それ以上は無理ですとなれば、もう全然前に進まないような感じがしますが、いかがでしょうか。

事務局 確かに御指摘をいただいたとおりかと思います。子ども子育てについても、窓口が、社会福祉課と教育委員会で分かれているのも、すでに分かりにくい部分にございます。今後の子ども子育てについての窓口を1つにし、ワンストップにしていくべきという課題だけは持っているのですが、まだ取り組めていないのが現状です。一つの窓口をコーディネーターを置くことで、機能すると思いますが、根本的に組織的な話も含めて取り組む必要があると考えております。回答になる。どうか。

武田会長 例えば田中委員が前回もおっしゃってくださったことが、委員としてこの計画に盛り込んでほしいと言えるものなのか、この問題はどこで議論してくれるのか。もしくは検討すべき課題なのか。この会議で意見を言ったが、結局解決にならないというときに、これはどこで議論をしてもらえるのか、例えば、各地域で専門職採用をしている自治体が増えてきている中で、こういったことの検討を盛り込むような文言を入れてほしいということも、案件には出てくるでしょうし、子ども子育てのことだけで

はないとなれば、別のところで検討をしていただきたいと思います。いかがでしょうかね。

事務局 4月から計画期間が始まる第6次の総合計画が、今でき上がってきております。その中の、教育と保育の窓口についての検討という項目で、課題として、わかりやすい窓口をつくってほしいというニーズがあり、それを検討していくという項目が上がっていたはずですので、それを踏まえると子育て支援事業計画の中に、ある程度のことを盛り込むことは可能であると考えているのですが。

武田会長 例えば教育側でいうと、スクールソーシャルワーカーの文言は、ここに入っていた感じがします。福祉の全体的なところで、コーディネーターの文言を入れることもいいと思います。貧困問題では、スクールソーシャルワーカー自身が、嘱託で貧困というところが業界では問題になったり、スクールソーシャルワーカーが、本当に児童福祉の専門もしくは経験を持ったワーカーなのか、というところも指摘はありますけれど、先ほど田中委員の御指摘の中であれば、専門職というソーシャルワーカーといった文言か、マネジメントコーディネートしていくような役割の人という文言を入れ、次につながる計画にしてもらいたいですね。

栄藤次長 スクールソーシャルワーカーの話が出ましたので、私の知り得る範囲でお話しさせていただきます。今、ソーシャルワーカー1名が、教育委員会に配置されております。仕事の内容は多岐にわたり、毎日のように小学校中学校を訪問しております。主に、教育環境のいわゆる悪い生徒児童について、家庭と学校の相談にのる、もちろん保護者の相談にものりますし、学校の先生の相談にも、本人の話も聞くということです。また学校だけでなく、社会福祉課関係所管も含めた活動で、精力的にいただいているところです。ただ、今は、問題のある家庭、問題のある児童生徒いうところに、力が注がれているような状態でございまして、一般的なコーディネーター的なことができているかというところ、そこまで至っていない。問題のある子どもの解決に手が一杯かかっている状況です。生活環境であるとか、学校での生活がうまくおくれなく、そういった児童生徒について、家庭と学校と、また社会福祉面での相談にのり解決に導いていこうとしているのが、スクールソーシャルワーカーの役目となっております。先ほどからのコーディネーター役が別におられれば、非常に機能するのではないかと思うところですが、現状的にはそんなところです。

武田会長 ありがとうございます。御意見ありますでしょうか。

木村部長 先ほど田中委員がおっしゃられたことは、十分理解はするところでございます。横断的な話ができるポジションの人間というのがあれば、ただ、今の役場組織の中で考えますと、そういったものを特別採用というのは、現実難しいのかと。実際認定こども園とか、もう少し前の話であれば、全国的に教育委員会部局と、社会福祉部局が統合した子ども子育て課とか、また全然違った組織改編性で、対応にあたったという経緯は他の市町ではあるかと思っております。ただそれを太子町でするのは難しいというところもあると思います。私個人的には、その横断的な話が今できるポジションの人間はだれかと思えますと、いわゆる部長職、私であれば、その実務をやるという話ではありませんが、話の橋渡しは、同じ部内であれば全部のお話ができますし、部局をまたいでも、話が気楽にできるのかなと思っております。ただ、それはそれぞれのポジションの人間が、常に意識を持つということで、この計画書の中で具体的にうたい込みは難しい。提起するためにも、書き込みは構わないかなと思いますが、それを次の5年間までに解決してくださいというのは、そこは難しいところかと思っておりますので、それにかわるポジションの人間が意識を持って、動いていくことでいけばいいの

かと私個人的に思うところでございます。

井原委員 先程話されたときに、部署が分かれて弊害になるという言葉が気になったのですが、部署が弊害とは、だれも思っていない。垣根を越えて町民と役場がフレンドリーになれば、それでいいということです。余り重く考え過ぎというか、コーディネーターがあれば、1番やりやすい太子町になると思いますが、今すぐにとというのが難しいのであれば、役場自体が課を超えてフレンドリーになったら、役場に行くのも、足が軽くなるような気がします。新庁舎できれいになっていきやすいなと思います。部署が分からないから弊害みたいな感じではなく、やわらかい感じで考えていただくと、物事が進むのではないかと思います。

武田会長 はい、ありがとうございます。では、意見の方も大分出していただけたかと思います。私のほうから、最後に、確認とお願いです。ざっと拝見した中で、いま一度アンケートを受けての内容になっているか。とりこぼしがないかを見ていただきたい。次に、待機児童ですが、事実上次の2期の中では解消される見込みはあるのでしょうか。

事務局 令和元年度の10月から始まった無償化の影響を受けまして、これまで以上に、待機児童が発生する可能性が出てきております。今まだ入所調整が完全に終わってないのですが、昨年の4月当初は、20名以下に落ちたのですが、それがまたいつときの50名60名ってような待機児童に戻る可能性ができています。

武田会長 この計画の中でその部分の新たなアプローチみたいな案は、出てくるのですか。

事務局 今回の計画に、現在そこまで盛り込めていないのですが。前の計画であれば、ハード面で、こども園を増やしていくというのが大きく打ち出されていきました。基本第1期の計画で、新設してきたこども園以上に今の段階で施設を増やすというのは、庁内で確認がとれていけませんので、難しいと考えています。

武田会長 1期のときに、計画の中でいくつか増やすというのは、見込みも含めてありましたけども、この2期の中に盛り込まないとしても、現状待機児童があつて、人数をふまえたときに、町としては、この計画にはないけれども、また新規に検討していくことになるのですか。

事務局 基本、保育施設を整備していくとなると、この計画に基づいた量の確保、待機児童を減らしていく計画が、この中に盛り込まれていないとだめなのです。実際はどうなるかは、予想がついていないのですが、新たな第2期の計画が始まり、いきなり待機児童が発生したということになれば、その時点で計画の数値を見直す必要が出てくるかと思います。見直した上で、これだけ不足しているので、太子町として、施設を整備していくという方向へ持っていかないと、国の補助もおりないことになりますので、状況を見て適宜計画の見直が、必要と思われます。今までなら、その中間年の見直しでしたが、制度が大きく動いていますので、見えない部分があります。スタートしていきなりその見直し作業に入るような形も、もしかしたら発生するのかなというのは、思っております。

武田会長 確かに、1期の計画の策定時も同様に、今建てる決めたとしても場所選定などで3年4年先の開園となると、4年後の子供の状況がどうなのかを見据えていく中で、大丈夫なのか、逆にそんなに要るのかの議論もあったかと思います。結局、国の制度が変わるとさらに状況が見えない中で、進めていかないといけないのは事実ですね。場

合によっては、計画の中で見直しをしていくという形が基本になるということですね。あと、追加でいただいた資料の中で、更新されている部分が幾つかありましたが、ここで提示の資料がかなりどれも古いですが。

事務局 古い分については、代えさせていただきます。国勢調査上のものについては、27年が最新となっていますので、そこだけは御承知いただきたい。

武田会長 1次のスタートが27年度ですから、2次となるとデータ上なかなか難しいですね。細かいところですが、11ページの保育所幼稚園の配置図について、例えば新しい二葉にじいりこども園とか、はおとの森こども園とかが載っていないので、更新が必要かと。

事務局 そちらも、専門のソフトが要るので、至急直させていただきます。

武田会長 技術的な文言とかについて、表現はまた精査されると思いますが、「何々推進します」とか、ところによっては「何々しています」と、表現されている。37ページや、ほかにも幾つもあったと思いますが、「何々を図ります」「育んでいきます」というような形ですが、③だけ最後の文言は、「実施しています」と。あと、ニーズの中で、議会でも質問が出たかと思いますが、病児病後児保育事業の部分というのは、アンケートの中でも大きくニーズとして出てきているもの。最後の5章では取り上げられてはいましたが、それまでは、この文言を見つけることができなかった。前段の方では必要性がないのでしょうか。

事務局 33頁保育サービスの充実の⑤では入れる必要があると思われます。これも少し具体的なことができるかどうかと。

武田会長 これも、相手のあることなので、町がやるというてできるものではないと重々承知します。そうすると町立診療所や病院なりを抱えない限りは、思うようにいかないと思うのですけども。協力はしていただけそうな見込み、診療所さんは、上がってきていますか。

事務局 町内を回らせていただいて、小児科の先生で協力をしたいということは伺っております。ただいろいろ検証していく中で、費用的な部分で、国や県の補助があるのですが、それ以上に経費がかかるところが見えてきているので、町のほうからどれだけ支援ができるか。最後はそういうところになってくると思っています。ニーズは高まっているというか、県下で太子町ができてないという状況ですので、何とか、事業の実施に向け進めていきたい。

武田会長 もう一度最後に、これだけはこの御意見はありませんでしょうか。

— 意見無し —

武田会長 それではこれで質疑の方は終了させていただきたいと思います。以上をもちまして本日の議題は終了いたしました。委員の皆様におかれましては、円滑な会議運営に御協力いただきありがとうございます。これ以降の進行については事務局のほうにお戻しいたと思います。よろしくお願いいたします。

4. その他 今後のスケジュールについて

事務局 今回の計画策定がずれ込んでおりますが、2月の半ば以降に、町全体に対して、この計画内容を公表して、意見を求める期間を設ける必要があります。パブリックコメントを出す前に、再度この子ども子育て会議を開かせていただきたいと思います。会長、先生とお話しをさせていただいて、2月の13か14あたりで調整をさせていただきたいと考えます。短い期間の中で会議を開くということになりますが、協力をお願いしたいと思います。それまでに、修正する部分については修正させていただいて、最終的な形のものを、会議までに提出していきたいと考えております。今日の資料をお持ち帰りいただいた後、この部分はどうかというようなことがありましたら、社会福祉課の方へお電話いただければと思います。電話は277-1013です。

木村部長 次回の委員会の内容については、今日出た意見の修正等と、今日でき上がっていない部分がありますが、基本、最後まででき上がった形での会議になるというふうに、解釈しておいてよろしいですか。

武田会長 最終会議のものが、パブリックコメントに上がると思っているのでしょうか。

事務局 はい、そういう形で進めさせていただきます。よろしくお願いします。

5. 閉会

この議事録が真正であることをここに署名する。

令和2年 2月 14日

署名委員

山口 昭彦

署名委員

岡村 珠美